



手をつなぐとも

# 等友

S  
60  
10  
1生

〒111-0041  
台東区元浅草  
2-10-17  
3841-2844  
真宗大谷派  
勝龍山  
等覚寺  
住職  
朝倉創

令和3年3月  
第110号  
責任編集  
朝倉 翔

ビルの谷間に春の息吹  
(日本橋三越屋上にて撮影)

老いるごとも、  
死ぬごとも、  
人間という儚い生き物の  
美しさだ  
老いるからこそ、  
死ぬからこそ  
堪らなく愛おしく、  
尊いのだ

はかな

漫画「鬼滅の刃」より

煉獄杏寿郎の言葉

## 住職から一言

みなさん、お元気ですか？なにげない普通の挨拶ですが、このコロナ禍においては非常に大きな意味を持つものを感じますね。春のお彼岸法要は皆さんとお勤めできることを願っております。

さて、今回の巻頭法語（表紙の言葉）は妻と子どもが大好きなアニメ「鬼滅の刃」に登場する煉獄杏寿郎（れんごくきょうじゅろう）の言葉を紹介しました。子ども向けのアニメとはいえ非常に哲学的、仏教的なことを言っているなあと感心しました。社会現象になつただけあるなど。うちの妻は三回も映画を観に行きましたよ。（内緒ですけど。）

『老いるからこそ 死ぬからこそ 堪らなく  
愛おしく尊いのだ』  
お釈迦さまの説く老・病・死の教えを表わしていますね。老いや死、病を善しとしない現代の私たちだからこそ、この言葉が響くのかもしれません。



煉獄 杏寿郎

### ◎コロナ禍をどう受け止めるか

令和二年十月二十五日に等覚寺の報恩講をお勤めいたしました。新型コロナウイルスの不安がある中、感染対策をしつかりと行つた上で開催しましたが、多くの方がお参りに来て下さいました。その中で住職がお話しました。ご法話の一部を御紹介させていただきます。



前回、お盆の時に「疫癪（えきれい）」という御文を最後に読みました。「疫癪」というのは、今で言う疫病です。この内容について簡単に振り返りたいと思います。『当時このごろ、ことのほかに疫癪とてひと死去す。これさらに疫癪によりてはじめて死するにはあらず。生れはじめしよりて定まれる定業なり』という言葉から始まる蓮如上人のお手紙です。これは延徳四年（一四九二年）に書かれ、人口の三分の一ぐらいが疫病で亡くなってしまったという年でした。それでこの時に蓮如上人に多くの方が助けを求めてきました。どうやつたら病にからないですか、どう生きたらいいですか、と。それに対するお返事がこの「疫癪」の御文というわけです。内容としては、確かに疫病にかかりたくないという気持ちは分かります。今で言うコロナですね。コロナは怖い。分かります。その気持ちは人間だからしょうがない。でも、人

間はコロナだけで死ぬんじゃないですよ、と。頭の中がコロナばっかりになってしまいますけど、人が命を終えていく縁というのは、たくさんありますよね。そもそも人が死んでいくのは、生まれて来たからです。死因ってよく言いますでしょう。死因としていろんな病気の名前が出ますけど、本当の死因というのは、「生まれて来たこと」なんです。生まれたから死んでいくわけです。それが道理なんです。そういうことをこの疫癒のお手紙の最初で書かれている。

ではどうですか、皆さんもだいぶコロナでお疲れじゃないですか。コロナのせいでいろんなことができなくなったりとかもありますよね。予定していたことが駄目になっちゃつたとか、習い事やめちゃつたとか。等覚寺でも月に一回の勉強会が開催できていません。そういう「コロナのせいで」っていう気持ちがすごくある。マスクもしなきゃいけないし、

消毒もたくさんして、手も荒れちゃうでしょう。それでも我慢してやっているということがあります。その一方で、例えば、テレワーク。実は自分の仕事が会社に毎日通わなくてできる仕事だったことがわかりました。どこにいても仕事ができるという新たな価値観が生まれたり、ラッシャアワーがだいぶ軽減されたりもしました。要はいろんな形で解決された問題もあるわけです。また、今まで当たり前だと思ってやつてきたことに、あれつこれ実は違うんじゃないの?とか、大事ではなかつたんじゃないの?っていうことも出てきています。どうですか。皆さんも今まで予定、予定で縛られて生きてきたなとかつて気付かれたりとか、もしかしたらあの集まり、コロナのせいで無くなつたけど、実は気が楽になつたな、そういうこともあると思うんです。

だから、言葉は悪いですが、「コロナのお

かげ」で気付けたこと、変わったことつてい  
うのも確かに思うんです。今日はその  
ことに目を向けるということをお話させてい  
ただきたいと思います。

結局、マスクをしたりとか、消毒したり  
とか、外出を控えるとかしてたら、どうで  
しょう。少なくとも僕はそうなのですが、明  
らかに体重が増えましたし、免疫力はやっぱ  
り下がっちゃうんです。だから、消毒してい  
るからコロナはかからないかも知れないけど、  
ウイルス性じゃない病気とかも他にあるわけ  
じゃないですか。そういうものにかかりやす  
くなる体になつてしたり、子どもなんてもろ  
に影響でましたね。コロナでの休み明けの学  
校では先生たちが驚いたそうです。みんな

ていただいて、口角上がると免疫力が上がる  
らしいですから。あとはビタミン取つたり、  
適度な運動をしたりすることで、コロナだけ  
じゃない、病気に負けない体づくりっていう  
ように、コロナのおかげで、こういうことも  
できる時間、趣味をちょっとできるようにな  
つたりとかするわけです。

僕の考えですが、現代の社会が大きく変  
わったきっかけとして、まずインターネット  
があります。インターネットが現れる前後で  
は大きく生活が変わりましたよね。便利にな  
つたけれども、実は、ネット社会によつて  
縛られたり苦しめられている面もあります。  
ネットいじめもありますよね。ライン（LINE）  
とかSNSで常に関係性を感じていな  
いと不安になつちゃう人もいるそうなんです。  
そういう弊害も含めて、インターネットで大  
きく社会は変わりました。そしてもう一つの  
きっかけがコロナだと思うんです。コロナに

よつて、実は生活が大きく変わつてゐる。コロナは確かに嫌です。でも、コロナによつて生まれた新しい生活つていうのが、いい面も多くのあるんじやないかとも思うんです。本来の人間らしい生活です。今までは、便利だからとかで何となくやつてることに對して、そこまで自分がリスクを冒してやるべきじゃないこともいっぱいあつたんじやないかといふことに気付けたわけです。

また、コロナによつて、今までの当たり前だつた生活がどんなにありがたいことだつたかということも気付けました。よく、病気になつて初めて健康だつた時の大切さが分かつたと言ひますけど、コロナ禍もまさにそうだと思います。コロナ禍になつていろんなことができなくなつて不便になつたけど、実は、友達と気軽に食事に行つたり、旅行に行つたりできたことが、どんなにありがたいことだつたんだなということに気付けたわけです。

私たちには、大きな長い歴史の中で生きているわけです。親鸞聖人が亡き後、もう七百五十年以上経つてゐるのに、親鸞聖人のご命日のご法要である報恩講が今もこうやつて勤まつてゐる。この等覚寺も、僕で十八代目、四百年ちょっと続いてゐる。過去の住職方とか、住職の奥さんである坊守さん方、皆さんのご先祖の方々、そして皆さん方がこのお寺を支えて下さつてゐるからこそ、このお寺が続いてゐるし、報恩講も勤められてゐるわけです。だから当たり前のようだに、今が、今日がこうやつてありますけど、それには長い歴史、長い人の命の歴史があつて、今があるわけです。このことは、本当に大事なことだと思ひます。そしてこういうことに対し私は、たちは、浄土真宗の門徒を中心に、この言葉で表してきました。「おかげさま」という言葉です。今では当たり前のように使つていますが、実は、浄土真宗の教えに生きた方々

が使い始めた言葉なんです。おかげさまってよく考えるとおかしくないですか？漢字で書くと、陰。そこに御と様まで付ける。この陰っていうのは、目に見えない存在ですよ。要は私たちの目に見えないものに対して御や様を付け、本当にありがたいものなんだということをおかげさまという言葉を使つて表しているわけです。

余談ですが、ある方がおっしゃつていました。今の世の中は、「おかげさま」じゃなくて、「お金さま」なんじやないのと。昔は、よく言われたと思うんですけど。おじいちゃんおばあちゃんとかに、ご飯は一粒も残しちゃ駄目ですよって。なぜなら、一生懸命農家の方がお米を作つて、それを運んでくれる方がいて、それを売つてくれる米屋さんがいて。要はいろんな人の支えがあつて、この米一粒があるんだから、残しちゃもつたといい、ということがありましたよね。でも、今、どう

ですか。現代の親御さんの中には、なんで学校でいただきます、ごちそうさまを言わなきゃいけないんだと言う方もいる。自分たちで稼いだお金で給食費払つているし、野菜や食べ物を買ってきて自分で料理して食べるんだから、そんな感謝する覚えがないというわけです。もう価値観がお金から見た価値観になつてしまつています。これが今の現代を表している、とも言われています。

だから今の現代で当たり前だと思つていたことや価値観に、コロナというご縁によつて、一度、いつ終えても不思議ではない、私たちのいのちを生きる上で、本当にこれは大切かどうか、あらためて確認し、本来の人間のあり方に目覚めていく大事な今を、私たちは生きているんじゃないかということをお伝えをしたかったんです。本当に、阿弥陀さんや、親鸞聖人の教えが、今の時代だからこそ、必要とされていると思うんです。

阿弥陀さんとか、ご先祖さま、仏さま、親鸞

にはかかりませんから、ぜひ今後も仏さまの教えと濃厚接触をしていただき、しっかりと感染対策をしていただきた上で、笑って過ごしていただきたいと思います。

釋創龍



## 周忌？回忌？

ご家族が亡くなつた後、ご命日から経過した年数ごとに法事をお勤めしますが、その際には一周忌や三回忌等、少し特殊な呼び方をしますよね。個人的にも好奇心があつたので、このあたりを調べてみました。

### ・由来は？

そもそもこの一周忌や三回忌っていう年忌法要はどのような由来があるのでしょうか。これはどうやら古代インドで発祥した仏教が中国に伝わり、そして中国の道教などの文化とミックスされた時に生れたようです。亡くなつた人は、冥界の王様により三回忌までに十回の審判を受ける、そのため残された家族はその度に冥福を祈つていたそうです。そしてその先は道教の考えによつて三と七という数字を大切に、故人を弔つてきたことに由来

するということでした。

### ・どのような流れなのか

それでは次に、年忌法要がどのように勤まつていくかというと、まずは通夜葬儀の後は七日ごとに忌日法要があります。初七日から始まり、七回目の七日目である四十九日までを一区切りとします。そして百ヶ日があり、一周忌三回忌七回忌・・・と続いていくわけです。この時に間違えやすいのが、経過年数です。数字の通りに考えてしまうと違つてしまふんですね。まずは一周忌。これはご命日のちょうど一年後になります。そして回忌は、ご命日を一年目として、そこから数えて何年目かを表しています。三回忌だと、ご命日の年（一年目）から数えて三年目ですから、ご命日の二年後となります。

### ・いつまで勤めればいいのか

皆さんから何回忌まで勤めればいいですか？と聞かれることがよくあります。できればご縁が続く限りはお勤めした方がいいです。顔も見たことないご先祖さんなんだから、もういいんじゃない？っていう声も聞こえてきそうですが、法事の意義をあらためて考えてみてください。法事は故人のために勤めるのではなく、先に仏様となられた故人をご縁として、今を生きる私たちがいのちについて、あらためて考える場です。私たちの今があるのは、いのちを繋いできてくださったご先祖さまがいるからです。そのいのちの繋がりをぜひご法事の場で次の世代へと語り、そして受け継いでいって下さい。



## 備忘録　～法事の準備～

### ○まずはお寺へ日程連絡

回忌の確認をし、「家族で法要希望日をお決めになりお早田にお寺へ連絡ください

### ○当日必要なもの

・お布施(「先祖さま合同で実施する場合は、先祖さま毎に包みを分けて下さい」)

### ○「希望によってお持ちください

- ・お花代(本堂にお飾りする)
- ・お花代で、一万円の実費)

### ○服装は華美でなければ平服でも結構です。

(「参加される方同士でお話しされてお決めください」)

※お寺へお包みいただき表書きは全て「布施」と書いていただければ結構です。浄土真宗の場合は「読経料」や「靈前」という言葉は用いません。

## 備忘録　～お焼香作法～

### ○お焼香のタイミング

お勤め中に声が掛かりますので、それまでお待ちください。順番には決まりはないので、施主の方から前に出て「焼香ください

### ○お焼香作法

・焼香机の前に進み、合掌せずに「本尊を仰ぎ見ます。赤い香盒(香入れ)の蓋を開けて香盒の右に置きます。

・右手でお香を一回、香炉にくべます。(お香を額に頂く」とはしません)お香の乱れを指先で直してから「南無阿弥陀仏」を称えて合掌礼拝をします。

・自分の後にお焼香する方がいれば蓋はそのままにし、最後であれば蓋を閉めて白席に戻ります。

# 備忘録　～お葬式について～

## ○事前のご相談もお気軽に

亡くなられた後ではバタバタとしてゆづくり検討する時間がありません。お寺にご連絡いただければ葬儀までの流れなどご不明、ご不安な点のご説明もさせていただきます。

## ○葬儀の場所

基本的にどちらにでも伺わせていただきます。遠方でも泊まりがけでお勤めさせていただいているので気にせずにご依頼ください。

また、可能な方はぜひお寺での葬儀を。故人が生前ご縁のあつた等覚寺の本堂で、あたたかくお「そかな」葬儀をすることができます。

## ○葬儀の布施

この時お預かりする布施は通夜葬儀のお勤めの対価ではありません。亡くなつた時をご縁にお寺の護持のためお納めいただくものです。どうぞお気軽にご相談ください。

# 備忘録　～ご納骨について～

## ○ご納骨のみはお受けできません

永代供養墓ではなく一般墓地をご利用の場合、浄土真宗の教義に則つて、葬儀式をお勤めしてからのご納骨となります。式のやり方のご希望等ご相談に乗れる部分もありますので、必ず火葬前にご連絡ください。

## 等友へのご懇意

### ～披露～

高橋愛子様　風間禎子様　山本一正様  
加藤伊知郎様　斎藤美代子様（順不同）

いつもご支援いただきまして、誠にありがとうございます。この等友誌や等友会は、こうしたご支援から成り立つております。

# 令和三年行事予定

三月二十日（土）

彼岸会・永代経

三月十七日～二十三日 春のお彼岸

七月十三日～十六日 お盆

七月十八日（日）

盂蘭盆会法要

九月二十日～二十六日 秋のお彼岸

十月二十四日（日）

報恩講

◎お気軽にご参加ください。

※ あくまで予定です。開催が確定した行事は必ず事前にご案内いたしますので、別途ご確認ください。



## 編集後記



ここにちはー・釋翔雲です。気候はまさに三寒四温、真冬のような寒さから急に春の陽気になつたりそしてまた寒くなつたり。服も何を着ていけばいいか大変ですね。そんな中、日本でもワクチン接種がはじまりましたね。そろそろ皆さんと楽しくお食事がしたいと思ってますので今後に期待です！

今回は周忌や回忌の由来について調べてみました。どんな仏教のお話しが絡んでいられるのだろうと期待してたのですが、中国の道教が由来だったので、ちょっと肩すかしをされた感じでした。。けどまた一つ知識がついて満足です。（等友の記事を使って自分の勉強をしてしまっています笑）

# 令和三年年回表

令和二年

平成三十一、令和元年

一周忌

三回忌

七回忌

十三回忌

十七回忌

二十三回忌

二十七回忌

三十三回忌

三十七回忌

四十三回忌

四十七回忌

五十回忌

七十四回忌

百回忌

大正十一年

昭和二十七年

昭和四十七年

昭和五十年

昭和五十四年

昭和六十一年

平成元年

平成十一年

平成十七年

平成二十一年

平成二十七年

平成二十二年

平成二十三年

平成二十七年

平成二十二年

平成二十三年

平成二十二年

平成二十三年

平成二十二年

平成二十三年

平成二十二年

平成二十三年

平成二十二年